



参加者みんなでパシャリ!



「耳原病院グループの現状と医療・福祉を巡る課題」について話す森専務

顔を合わせ交流!楽しかった

高石ブロック新年集会

1月25日、「高石みみともセンター」で2回目の高石ブロック新年集会を開き、4支部の世話人・協力者に加え、元高石診療所の看護師・事務職員4名を含む38名が参加しました。

コロナ禍以降、ブロック行事が「友の会まつり」のみとなり、各支部が孤立しがちな状況を受け、「年に一度は顔を合

わせ交流する場が必要だ」との考えで開催しました。

前半は、友の会事務局・井上さんから「無料低額診療事業」について話を聞き、改めてその意義と重要性について学びました。森専務からは「耳原病院グループの現状と医療・福祉を巡る課題」についての話を聞きました。

その後、お弁当を囲んで交流しましたが、参加者全員の自己紹介、活動に対する一言タイムを設ければさらに良かったと感じています。4支部の

皆さんがとても嬉しそうだったし、ブロック全体の和気合々としたつながりがあったこそ高石ブロックの事業活動も発展するのだから。

の求心力の低下や世話人の超高齢化が進んでいる高石の地で、元気の出る支えになる集いや活動を工夫していくことが望まれます。



食後のコーヒーいる人~? はい~!

何か特別な企画や出し物があったわけではありませんが、交流の中で友の会の意義、参加者の友の会での役割を考える機会になったのではないかと思います。初めて参加した人は2人でしたが、来年はもっと多くの人が参加できるようにしたいものです。

(深井支部 大谷秀信)

みんなで集い 楽しく歓談&交流

中区深井支部 担い手交流会



みんなで集まって会話が弾みます♪

1月29日、中区深井支部の担い手交流会を深井の「すし半」にて開催しました。

支部顧問、支部専任、友の会事務局員、支部世話人、班会世話人、新聞配達者を含む支部担い手と招待者ら22人が集い、食事を交えて楽しく歓談・交流しました。

会場は細長い部屋だったので、参加者は3つの

テーブルに分かれて座りました。それぞれのテーブルでは、友の会とのかわり、身近に起こったこと、健康のために気をつけていること、物が高くてやりくりが大変なこと、今度の選挙は何かおかしかなど会話がはずみました。

何か特別な企画や出し物があったわけではありませんが、交流の中で友の会の意義、参加者の友の会での役割を考える機会になったのではないかと思います。初めて参加した人は2人でしたが、来年はもっと多くの人が参加できるようにしたいものです。

(深井支部 大谷秀信)



参加した会員さんからたくさん質問がありがとうございました

参加者からは「自分が飲んでる薬は対象になるのか」「セルフメディケーションと言われても、どの市販薬が自分に合うか判断するのは難しい」など、具体的な質問が多く寄せられ、関心の高さがうかがえました。活発な質疑応答もあり、有意義な学びの時間となりました。

(東西支部 大門知子)

OTC類似薬とは?

OTC類似薬		保険適用	
●市販薬と成分・効果はほぼ同じ	●処方箋が必要	●医療用医薬品	
自己負担			
小学生未満	小学生~69歳	70~74歳	75歳以上
2割	3割	2割	1割

※小学生未満の自己負担額について、基本は自治体による公費負担で処方されるため無料または低額です。

市販薬 (OTC医薬品)

●ドラッグストアなどで購入

全額自己負担

かぜ薬

抗アレルギー薬

湿布

目薬 など

どんな問題があるの?

現在「OTC類似薬」について保険適用から除外する動きが出ています。OTC類似薬が保険適用から除外される流れには、医療費抑制、セルフメディケーション推進、医療資源の効率的活用といった複数の目的がありますが、薬代が大幅に増加すれば、適切な診断や自分に合った医薬品の処方を望む患者さんが、経済的理由によって治療を諦めざるを得ないケースが増えるとして強く危惧されます。



自転車で訪問します!

訪問介護は、スタッフ1人で利用者様のお宅を訪問し、生活援助や身体介護を行う仕事です。利用者様の生活環境や価値観はさまざまで、戸惑う場面もありませんが、事務所に相談し、職員同士で意

訪問介護では、利用者様との何気ない会話の中から、小さな変化や体調・気持ちに気付くことが大切です。出過ぎず、退き過ぎず、聞き上手であること、柔軟に対応する姿勢が求められます。

訪問介護では、利用者様との何気ない会話の中から、小さな変化や体調・気持ちに気付くことが大切です。出過ぎず、退き過ぎず、聞き上手であること、柔軟に対応する姿勢が求められます。

利用者様の小さな変化に気付く

安心して働くことができます。

日々の関わりの中で、利用者様から信頼して任せていただけることは大きな励みです。この仕事を続けてきて本当に良かったと、心から感じています。

介護の現場から

34



耳原ヘルパーステーション堺 訪問介護スタッフ 高木 幸子

見を出し合いながら「安全で適切な介護とは何か」「その方に本当に必要な支援は何か」を一緒に考える体制があることで、1人で悩みを抱え込まず、安心して働く

住み慣れたご自宅です、その方らしい生活を続けていただくために、訪問介護は欠かせない支援です。技術だけでなく、優しさや誠実さをもって向き合うことが、訪問介護の大切な役割であり、私自身のやりがいにもつながっています。